

教育委員会

だより

到達度把握検査における学力の定着状況について

黒潮町教育委員会では、「子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上」を最重要課題のひとつとして、学校教育の充実に向けて取り組みを推進しています。

その取り組みのひとつとして、子どもたちが学習の内容をどれだけ理解しているか、学んだことがどれだけ身についているかを測り、学習内容の定着に役立てるための検査（到達度把握検査）を実施しています。今号では、4月に全小中学校で実施したこの検査について、集計結果の概要をお知らせします。

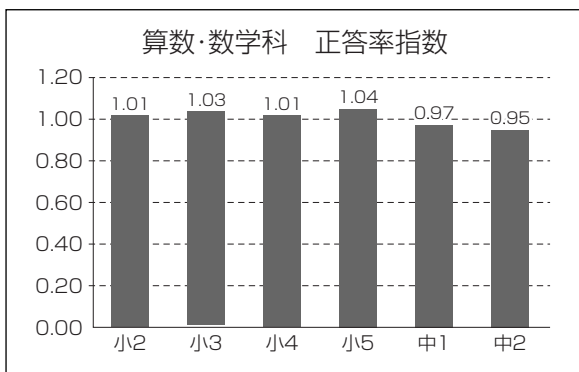
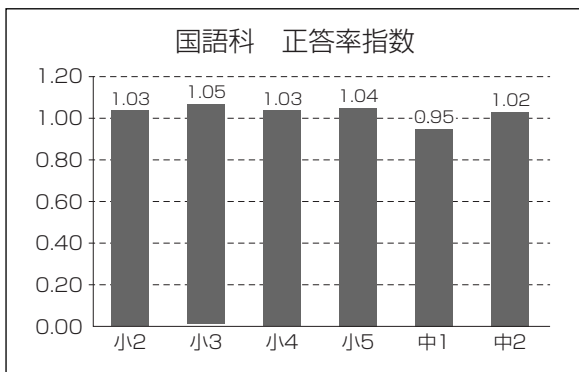
下のグラフは、到達度把握検査の集計結果について、全国正答率を「1」とした正答率指数で示したものです。

全体的な傾向として、小学校では国語・算数とも全国と同等かそれ以上の状況であり、概ね基礎的な学習内容の定着

が図られていると思われまふ。例えば、国語では漢字の読み書きや、ある条件をもとに文章を書くことなどが全国を上回っています。

漢字については、学校や家庭での漢字練習、町内での力だめしテストなどへの取り組みの成果が現れているものと考えられます。

しかし「読む力」、特に説明文などの書かれている内容を読み取る問題に課題が見られました。ひとつの手立てとして、学校だけでなく家庭でも読書の習慣化を図るなど、読書量を増やすことが考えられます。



算数では、基本的な計算については全国と同等かそれ以上であり、計算タイムなどによる各校での取り組みの成果が現れているものと考えられます。しかし、分数・整数などの大小を比較する問題や量としてのとらえ方などに課題が見られました。授業で身につけた知識や技能を、実際の生活や学習の場で活用していくことが大切になってきます。

中学校においては、国語・数学とも全国をやや下回る状況が見られるものの、中学2年生の国語では全国と同等であり、数学においても昨年度と比べ全国の状況に近づいて

います。今後は、これまで以上に小学校段階から中学校段階へのスムーズな接続が求められるとされます。

課題としては、国語では中学1年生の「書く力」に弱さが見られました。

小学校でも言えることです。普段から「書く」ことを大切にしながら、自分の考えを自分の言葉で効果的に表現する活動を取り入れていくことが重要です。

数学では、比例・反比例などの「数量関係」を苦手としている生徒が多いようです。

このように、今年度の学力の定着状況についてお知らせしましたが、昨年度と比べ小中学校ともに向上していることがうかがわれます。

各学校では、子どもたちに身につけたい力を明らかにし、校内研修で互いの授業を見合ったり講師を招いて学習するなど、「わかる楽しい授業」を目指し、授業改善に取り組みんでいます。

そのような取り組みによる成果が、現れてきているのではないのでしょうか。教育委員会としても、町全

体で子どもたちに基礎的・基本的な内容が身につけられるよう、小学校間の連携や小学校と中学校の連携強化に努めていきたいと考えています。

また、各ご家庭におかれましても、基本的な生活習慣や家庭学習の定着に向けてご協力のほどよろしく願っています。

学校・家庭・地域が手を携え、みんなで子どもたちを支えていくことで、確かな学力と豊かな心が育まれていくのと思ひます。『まちの宝』の成長をみんなで見守ってくださいませ。

※到達度把握検査は、前年度の学年の学習内容を検査したものです。

※全国と同等の定着状況であれば、正答率指数は「1.00」となります。

○お問い合わせ

教育委員会

☎ 43-1059 (直通)

佐賀小学校

「子ども一人ひとりを大切に
した教育をめざして」

校長 高見 匡

はじめに

本校は、学級数8、児童数125名、教職員数15名で、教育目標を「たくましく心豊かな児童の育成」、基礎学力を定着させる(知)、一人ひとりをたいせつにする(徳)、たくましい心を育てる(体)として、保護者や地域との共有に、みんなで取り組んでいます。



校舎全景

佐賀小の教育活動

「人権意識・人権尊重の考えに立ち心を通い合わせる集団づくり」

互いを信頼し、学びを共に共感でき、認め支えあえる学習集団や、あたたかな目、優

しい態度で接することのできる異学年集団をつくる。



折りツル集会

「よく聞き、表現する力を高め、より確かな学力向上を図る」

聞き方・話し方の具体的な方策を実行し、「かかわり合う」授業を行い、一人ひとりの学習意欲や理解力を伸ばす。評価基準の達成を目標に授業の質の向上をめざす。

本校の児童の学力を4月に行った「到達度把握調査」(2～5年生で実施)で見ると、2年生は、国語で2・7ポイント、算数で2・4ポイント、3年生は、国語で9・4ポイント、算数で6ポイント、4年生は、国語で2・9ポイント、算数で5ポイント、5年生は、国語で2・3ポイント、算数で5・1ポイント、全国平均正答率よりも、校内平均正答率が上回っています。

しかし、観点別の値を見るとまだまだ課題があります。児童一人ひとりに確かな学力をつけるための有効な授業を行うために、人権教育・道徳教育の授業はもとより、算数科の授業研究を全教員が行って授業力の向上を目指しています。講師を招き、外部の目を入れて意見を聞きながら、研究を深めています。

「一人ひとりに基礎学力をしっかりとし身に付けさせる」

音読の発表の場、計算タイムや漢字タイムの継承、読み聞かせや読書の時間の設定、家庭学習の奨励、佐賀つ子10の約束(学習規律)などの継続した取り組みを進める。読み聞かせは、毎週定期的に行い、地域の方の協力を得たり、担任以外の教職員が交代で行っています。また、10月からは、6年生が、1～4年生の教室に行つて読み聞かせを行っています。

「生活リズムの確立と体力づくり、食育の充実を図る」

学力はもとより、人間形成の基礎に基本的な生活習慣の確立があることを押さえ、児童の実態をもとに、望ましい生活づくりを家庭や地域と連携して進める。

生活リズムの確立を目指して、定期的な生活調査を行い、学期末の個人面談や学級懇談には、調査結果をもとにして保護者との連携による生活改善の取り組みを行っています。体力づくりでは、体育の授業はもとより、毎朝5分間マラソンを行うなどしています。以上の4点を児童の人格形成の中心に据え、児童一人ひとりに、確かな学力をつけるための教育活動を行っています。

人々に支えられた体験学習

本校の教育活動に深まりを持たせ充実させるために通常行っている社会科学見学や校区探検に加えて、各学年が体験学習を取り入れています。

これまで行つたものに、1年生の、竹の子掘り、キュウリ狩り、幡多農高での搾乳・肥料作り・乗馬。2年生の三原でのにわたりの観察や卵取り。3年生の高齢者体験、かしま荘での介護体験。4年生の職場体験(7カ所)。5年生の障がい者理解学習、6年生の人権教育を深めるための

フィールドワーク。全学年で行つた平和学習など、さまざまな体験学習を行っています。

この学習が実施できているのも、企画をしてくださった保護者の方々、地域の皆さん、各施設の関係者の皆さんのおかげだと感謝しています。

体験後の子どもたちは、新しい発見・経験をしてよい表情を見せてくれています。



2年生の体験

おわりに

これからも、児童一人ひとりの実態にあった教育活動を行い、児童が楽しく学習できる学校を目指していきたいと思えます。

また、保護者・地域の方々との連携を深めて、充実した教育活動にしていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。